

「抗 IDH1 R132H1 抗体による神経膠腫の術中病理診断の有用性に関する研究」  
のお願いとお知らせ

神経膠腫の診断は、反応性グリオシスと呼ばれる状態と区別することが難しい場合があります。最近、神経膠腫は多くの場合、その発生の極めて早い段階でイソクエン酸デヒドロゲナーゼ IDH1 とよばれる物質の変異が起こるとされています。つまり、IDH1 の異常を認めた場合、反応性グリオシスではなく、神経膠腫であると診断できると考えられます。また神経膠腫の治療においては、初回手術での摘出率が予後に直結するとされています。今回の研究の目的は、イソクエン酸デヒドロゲナーゼ IDH1 抗体を用いて、神経膠腫の術中迅速診断が可能だったかを検討することです。

これまで、防衛医科大学校病院で手術をうけた神経膠腫の患者さんで、術中にイソクエン酸デヒドロゲナーゼ IDH1 抗体を用いた病理診断を施行された患者さんを対象とした後向き研究（過去にさかのぼって、臨床情報を調査すること）により実施します。これまでの既存情報のみを用い、新たに研究のために患者さんから検体を採取したり検査を行う事はありません。

患者さんの臨床情報は ID 等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化によって管理され、プライバシーが保護されます。また、上記の期間に神経膠腫で入院され、手術をうけられた患者さん（または親族の方）で、ご自分の臨床情報を研究に使わないでほしいというご希望があれば下記連絡先までご連絡をいただけますようお願いいたします。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、防衛医科大学校脳神経外科における診療には全く何の影響もなく、いかなる意思においても不利益を被ることはありません。

連絡先：防衛医科大学校病院 脳神経外科  
長田 秀夫  
TEL：04-2995-1211 内線 2354